

## 技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	<span style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">安全・防災</span> インフラDX                    維持管理                    環境                    コスト                    品質                    （該当分類に○を付記）		
技術名称	登坂傾斜OKくん	担当部署	土木部
NETIS登録番号	QS-230008-A	担当者	木下哲治
社名等	旭建設株式会社	電話番号	0982-52-1234
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	本技術は安全管理に関する技術である。車両系建設機械(バックホウ)の登坂作業については、従来、安全監視員による目視確認としていたが、本技術では登坂能力オーバーに対し「LED光源」と「アラーム音」により警告を行うことで、安全意識の向上を図る技術である。		
	2. 技術の内容		
	①何について何をする技術なのか？ ・車両系建設機械(バックホウ)の登坂作業において、規定する作業能力(登坂角度30°)を超えた際、現場監視員にLED光源発光とアラーム音により警告、オペレーターに対してはキャビン内に装着した無線警告装置により、アラームと赤色点滅により警告を促し安全意識の向上を図る技術。 ※一般的なバックホウの登坂能力(バケット容量0.011m <sup>3</sup> ~0.22m <sup>3</sup> :30°、0.28m <sup>3</sup> ~1.9m <sup>3</sup> :35°) ②従来は、どのような技術で対応していたのか？ 現場監視員の目視による確認 ③公共工事のどこに適用できるのか？ ・車両系建設機械(バックホウ)を使用する土工時おける掘削及び盛土作業全般		
	3. 技術の効果		
①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか？) ・車両系建設機械(バックホウ)の登坂作業勾配を現場監視員がリアルタイムで確認できる。 ・転倒災害のリスクが高まる作業能力基準値の見える化。 ・規定する作業能力(登坂角度30°)を超えると現場監視員及びキャビン内のオペレーターへのLED点滅と音声アラームにより警告を行う。 ②期待される効果は？(新技術活用のメリットは？) ・オペレーター、現場監視員、現場責任者など関係者全員に安全意識の向上が図れる。			
4. 技術の適用範囲			
①適用可能な範囲 ・車両系建設機械(バックホウ)を使用する工事全般 ※登坂傾斜が、バックホウのバケット容量0.011m <sup>3</sup> ~0.22m <sup>3</sup> では30°以下、バケット容量0.28m <sup>3</sup> ~1.9m <sup>3</sup> では35°以下とする。 ②特に効果の高い適用範囲 ・道路改良など斜面の地山切土において、掘削高が随時変化することで車両系建設機械(バックホウ)の登坂作業が多く発生する現場。 ・高台盛土など、盛土高が随時変化し、車両系建設機械(バックホウ)の登坂作業が多く発生する現場。 ・土工施工ヤードが起伏が大きい傾斜地の現場 ③適用できない範囲 ・足回りが、クローラー(キャタピラー)ではなくタイヤ式の車両系建設機械(バックホウ) ・バックホウ以外の車両系建設機械			
5. 活用実績			
国の機関    0 件 (九州    0件、九州以外    0件 ) 自治体        0 件 (九州    0件、九州以外    0件 ) 民間            0 件 (九州    0件、九州以外    0件 )			

### 重機登坂作業時の危険警告システム 【登坂傾斜OKくん】



未来の危険に警告！

登坂傾斜OKくん

重機の登坂能力オーバーを  
音と光でオペレーター、監視員へ伝える



現場監視者による確認



オペレーターへの警告

\*各メーカー重機の最大登坂能力 35°  
警告して安全を見込み30°にて設定